



おうたく
 王鐸（明・一五九二〜一六五二）を
 もとにして倣書で書いています
 王鐸は行書軸、草書軸が数多く
 残っており、連綿作品を書く時には
 欠かせない古典である

ほたる
 螢は入る 曝衣の楼
 昼間衣を日に干した「曝衣」の楼閣に
 ホタルが舞い込む
 （中唐・李賀の詩より）

